

授業実践に向けたレポート

(唐津市立 外町) 小学校 (馬場 智大)

1 授業実践について

(1) 学年・単元名

第(4)学年 単元名「すがたを変える水」

(2) 単元学習計画案

学習過程	児童の学習活動	時数
ふれる	・事象提示から単元の学習問題をつかむ。	1時間(本時)
さぐる	・水を温め続けたときのようにすと温度の変化を調べる。 ・水の沸騰の際に出てきた泡の正体を調べる。 ・水を冷やし続けたときのようにすと温度の変化を調べる。	1時間 2時間 2時間
いかす	・水は温度によって、気体・液体・固体に状態が変わることを単元の学習問題に沿ってまとめる。	1時間

(3) 想定される展開

想定される学習活動や児童の様子	想定される指導
<p>○教師の事象提示を見て予想する。 (温度計だけが見える状態にした、温度計以外の条件が違う3つの温度計がどんな状態の水の中の温度を計っているかを予想する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度が高いからお湯の中だろう。 ・湯気がでて、上部に水滴がたまっているから沸騰していると思う。 ・温度が低くて結露が見られるから氷水だ。 <p>○事象提示から3つの中身はどのようになっているのかを絵・図・言葉で予想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aは温度がとても高いから水が沸騰している。 ・Bは温度がAより低く、Bよりも高いため常温の水である。 ・Bは温度が低いから水を温め始めたもの。 ・Cは0度に近いから氷水か氷である。 <p>○発表からでた予想を基に単元の学習問題を立てる。 「水は温度によってどのようなにすがたを変えるのだろうか。」</p>	<p>※温度計だけが見える状態にするため、ブラックボックスを活用する。 ※細かな変化に気付かせるために背景の色や装置を工夫する。</p> <p>○温度計に注目させ、中身にはあまりふれずに、「中身はどうなっていると思う？」と発問する。</p> <p>○生活経験を根拠にして予想を書かせるために、写真カードを掲示する。(机上・電子黒板)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沸騰して湯気が出る様子 ・1月8日(雪の日)の天気と気温、外の様子 ・氷水を入れたコップの周りの結露の様子 ・学校の水道から出る常温の水の様子 <p>○児童の予想を書画カメラで提示し、全体で共有する。</p> <p>○単元の最後に学習問題を解決し、本時の事象提示を説明できるようになることを目標にさせる。</p>

2 全体を通しての所感

<p>生活経験を根拠とさせることが教師のできる手立てで、そのために授業内容をより生活に近いものにする工夫をしていくべきであると改めて感じた。また、どの学年にも明確なねらいがあるが、各学年での理科学習の積み重ねにより、科学的な見方や考え方が養われると思うため、4年生でも比較や、多面的に見るという場面を上学年よりは簡単に取り入れていきたいと思う。</p>
--